

JIS X 0213 本文の改正原案

1. 本体 1. (適用範囲) の第 1 段落を, 次に置き換える.
 1. 適用範囲 この規格は, JIS X 0208 で規定する 6 879 文字の符号化漢字集合を拡張し, JIS X 0208 と同時に運用する 4 354 文字を含め 11 233 の図形文字とそれらのビット組合せとの対応を規定する。この規格は, 第 4 水準漢字集合を除く 8 797 文字からなる符号化漢字集合と第 4 水準漢字集合の 2 436 文字からなる符号化漢字集合との二つの符号化漢字集合を規定する。
2. 本体 2. (引用規格) の JIS X 0221 を, 次に置き換える。

JIS X 0221-1 国際符号化文字集合 (UCS) – 第 1 部 : 体系及び基本多言語面
3. 本体 2. (引用規格) の末尾に, 次の規格を追加する。

ISO/IEC 10646-2 Information technology – Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) – Part 2: Supplementary Planes
4. 本体 3.2.1 (図形文字の適合性) を, 次に置き換える。

3.2.1 図形文字の適合性 この規格の実装水準 4 に対して適合性を主張する場合, この規格で規定する 11 233 文字のすべてを実装し, 次に規定するすべての要件を満たさなければならない。

この規格の実装水準 3 に対して適合性を主張する場合, この規格で規定する文字のうち第 4 水準漢字集合を除く 8 797 文字のすべてを実装し, 次に規定するすべての要件を満たさなければならない。
5. 本体 5.3 (名前) を, 次に置き換える。

5.3 名前 この規格では, 規定するすべての文字に対して名前を割り当てる。さらに, 文字 SPACE (スペース) 及び文字 DELETE (抹消) に対する略号を規定する。文字の名前の表記には, ラテン大文字 (A~Z), スペース及びハイフンだけを使用する。略号には, ラテン大文字だけを使用する。図形文字を示すために付けられた名前は, 文字の慣習的な意味を反映するようにしている。ただし, 漢字の名前は, CJK UNIFIED IDEOGRAPH-XXXX , CJK UNIFIED IDEOGRAPH-2YYYYY 又は CJK COMPATIBILITY IDEOGRAPH-XXXX と表す。
6. 本体 5.3 の備考 1. を, 次に置き換える。

備考 1. XXXX は JIS X 0221-1 の 16 進表記の 2 オクテット符号化表現とし,

2YYYYはISO/IEC 10646-2第2面の16進表記の5けたの符号化表現とする。ただし、この規格には、JIS X 0221-1又はISO/IEC 10646-2に含まれていない文字も含まれている。これらの文字の名前は、[NAME]と括弧でくくって表し、参考とする。

7. 本体 5.3 の備考 2.を、次に置き換える。

備考 2. この規格における文字の解釈は、JIS X 0221-1又はISO/IEC 10646-2のそれと必ずしも同一ではない。この規格は、図形文字の意味及び用途を定義しないし、制限もしない。

8. 本体 6.5.2 (漢字集合中の図形文字の種類) の j)を、次に置き換える。




j) 漢字 JIS X 0208 の第 1 水準漢字集合 2 965 文字及び第 2 水準漢字集合 3 390 文字の計 6 355 文字並びに第 3 水準漢字集合 1 259 文字及び第 4 水準漢字集合 2 436 文字の名前及びビット組合せは、附属書 6 による。漢字の面区点位置の解釈は、6.6 による。

9. 表 1 (漢字集合 1 面の符号表) を、次に置き換える。





【表 1 (table1.pdf) を参照】



10. 本体 6.6 (漢字の面区点位置の解釈)



- 10.1 6.6.3.1 第一段落参考の例を、次に置き換える。

例  は、面区点位置1-37-7の例示字体であり、1-37-7によって表現される。また、包摂規準a) (連番19) によって、 及び  も同じ面区点位置1-37-7に対応し、1-37-7によって表現される。したがって、この規格では、これらの三つの字体は相互に区別されない。

- 10.2 6.6.3.1 b)の例2を、次に置き換える。

例2. 包摂規準f) (連番161)  ・  及び (連番 167)  ・  を適用すると“祿” (1-47-29) 及び“祿” (1-67-19) の面区点位置が互いの字体を包摂してしまうので、これらのいずれの面区点位置にも、包摂規準f) (連番 167) を適用しない。一方、これらのいずれの面区点位置にもf) (連番 161) は適用することができる。この結果

 及び  は1-47-29 (例示字体“祿”) によって表現され、互いに区別されず、

 及び  は1-67-19 (例示字体“祿”) によって表現され、互いに区別されない。

10.3 本体6.6.3.2の表3（漢字の字体の包摂規準一覧）中、

- a) 6) の (1-38-61) 呑,
 - c) 96) の (1-53-11) 妍,
 - c) 97) の (1-54-85) 并,
- を削除し、
- f)165)を（適用されない）とする。

10.4 本体6.6.3.2の

- a) 6) の面区点位置の例（参考）の (1-38-61) 呑,
 - b) 63) の面区点位置の例（参考）の (1-22-70) 俱,
 - b) 78) の面区点位置の例（参考）の (1-28-24) 叱,
 - c) 92) の面区点位置の例（参考）の (1-33-73) 瘦,
 - c) 96) の面区点位置の例（参考）の (1-53-11) 妍,
 - c) 97) の面区点位置の例（参考）の (1-54-2) 屏, 及び (1-54-85) 并,
 - f) 166) の面区点位置の例（参考）の (1-17-19) 嘘,
 - f) 167) の面区点位置の例（参考）の (1-39-77) 剥
- を削除し、
- c) 92) の適用除外（規定）に、
 (1-33-73) 瘦を追加し、
 - f)165)を（適用されない）とする。

11. 本体 9.1（JIS X 0202 の符号拡張法の環境での利用）を、次に置き換える。

9.1 JIS X 0202 の符号拡張法の環境での利用 7.1~7.3 で規定する符号化文字集合を JIS X 0202 の符号拡張法の環境で使用する場合、各符号化文字集合に対する図形文字集合の割当ては、次の a)~f)に示す指示のエスケープシーケンスによる。

- a) 漢字用 7 ビット符号 ESC 2/4 2/8 5/1 ESC 2/4 2/9 5/0
- b) 漢字用 8 ビット符号 ESC 2/4 2/8 5/1 ESC 2/4 2/9 5/0
- c) 国際基準版・漢字用 7 ビット符号 ESC 2/8 4/2 ESC 2/4 2/9 5/1 ESC 2/4
2/11 5/0
- d) 国際基準版・漢字用 8 ビット符号 ESC 2/8 4/2 ESC 2/4 2/9 5/1 ESC 2/4
2/11 5/0
- e) ラテン文字・漢字用 7 ビット符号 ESC 2/8 4/10 ESC 2/4 2/9 5/1 ESC 2/4
2/11 5/0
- f) ラテン文字・漢字用 8 ビット符号 ESC 2/8 4/10 ESC 2/4 2/9 5/1 ESC 2/4
2/11 5/0

ここで、ESC は、制御文字 ESCAPE (エスケープ) の略号とする。

N.B.) 新しい 1 面の終端バイト Q (5/1) は仮のものであり、登録後に確定した終端バイトと置き換える。項番 12, 15 も同様。

12. 本体 9.2 (指示) の第 1 段落を、次に置き換える。

9.2 指示 6.5.1 で規定する漢字集合を JIS X 0202 の符号拡張法を主とする環境で指示する場合、1 面の指示に当たって終端バイトは 5/1 とし、2 面の指示に当たって終端バイトは 5/0 とする。漢字集合 1 面の指示のエスケープシーケンスは、次による。

G0 集合 ESC 2/4 2/8 5/1

G1 集合 ESC 2/4 2/9 5/1

G2 集合 ESC 2/4 2/10 5/1

G3 集合 ESC 2/4 2/11 5/1

13. 附属書 1 において符号化表現の名前 Shift_JISX0213 をすべて Shift_JISX0213-2003 に読み替え、Shift_JISX0213-plane1 は Shift_JISX0213-2003-plane1 に読み替える。

14. 附属書 2 において符号化表現の名前 ISO-2022-JP-3 をすべて ISO-2022-JP-3-2003 に読み替え、ISO-2022-JP-3-plane1 は ISO-2022-JP-3-2003-plane1 に読み替える。

15. 附属書 2 の 4.1 を、次に置き換える。

4.1 ISO-2022-JP-3-2003 符号化文字集合 ISO-2022-JP-3-2003 符号化文字集合の構造は、附属書 2 図 1~4A による。

a) ビット組合せ 00~1F は、JIS X 0211 の C0 集合による制御文字の領域とする。ただし、ビット組合せ 0E, 0F は使用しない。ビット組合せ 1B は e) による。

b) ビット組合せ 20 は、文字 SPACE とする。

c) ビット組合せ 21~7E は、図形文字の領域とする。

d) ビット組合せ 7F は、制御文字 DELETE とする。

e) ビット組合せ 1B で始まる次の 3 バイト又は 4 バイトの列は、制御文字の領域及び図形文字の領域の使用法の切替えに用いる。ビット組合せ 1B は、これ以外の形では現れない。

1B 28 42 以後、制御文字の領域は、JIS X 0211 の C0 文字領域を表し、図形文字の領域は、ISO/IEC 646 の国際基準版を表す。

1B 24 28 51 以後、制御文字の領域は使用せず、図形文字の領域は、本体 6.5.1 で規定する漢字集合の 1 面を表す。SPACE 及び DELETE は使用しない。

1B 24 28 50 以後、制御文字の領域は使用せず、図形文字の領域は、本体 6.5.1 で規定

する漢字集合の 2 面を表す。SPACE 及び DELETE は使用しない。ただし、実装水準 3 では、1B 24 28 50 は用いない。

1B 24 42 以後、制御文字の領域は使用せず、図形文字の領域は、本体 6.5.1 で規定する漢字集合の 1 面から附属書 2 表 1 及び附属書 2 表 2 に示す図形文字を除外したものを表す。SPACE 及び DELETE は使用しない。

1B 24 28 4F 以後、制御文字の領域は使用せず、図形文字の領域は、本体 6.5.1 で規定する漢字集合の 1 面から附属書 2 表 2 に示す図形文字を除外したものを表す。SPACE 及び DELETE は使用しない。

16. 附属書 2 図 4 を、次に置き換える。

【附属書 2 図 4 (annex2.pdf) を参照】

17. 附属書 2 図 4 の後に、次の附属書 2 図 4A を追加する。

【附属書 2 図 4A (annex2.pdf) を参照】

18. 附属書 2 図 5 を、次に置き換える。

【附属書 2 図 5 (annex2.pdf) を参照】

19. 附属書 2 表 1 (1B 24 42 で使用しない 1 面の文字) の後に、次の附属書 2 表 2 を追加する。

附属書 2 表 2 (1B 24 42 及び 1B 24 28 4F で使用しない 1 面の文字)

1-14-1 (俱)	1-15-94 (剥)	1-17-19 (嘘)	1-22-70 (俱)	1-23-50 (繫)	1-28-24 (叱)
1-33-73 (瘦)	1-38-61 (吞)	1-39-77 (剥)	1-47-52 (叱)	1-47-94 (吞)	1-53-11 (妍)
1-54-2 (屏)	1-54-85 (并)	1-84-7 (嘘)	1-94-90 (妍)	1-94-91 (屏)	1-94-92 (并)
1-94-93 (瘦)	1-94-94 (繫)				

20. 附属書 3 において符号化表現の名前 EUC-JISX0213 をすべて EUC-JISX0213-2003 に読み替え、EUC-JISX0213-plane1 は EUC-JISX0213-2003-plane1 に読み替える。

21. 附属書 4 (仮名、特殊文字及びけい線素片) の g) を、次に置き換える。

g) SJIS 附属書 1 (Shift_JISX0213-2003 符号化表現) によるビット組合せ。

22. 附属書 4 (仮名、特殊文字及びけい線素片) の g) の参考を、次に置き換える。

参考 Shift_JISX0213-2003 符号化表現は、本体に規定する符号化表現とは全く別の符号である。

23. 附属書 4 (仮名, 特殊文字及びけい線素片) の i) を, 次に置き換える。
- i) 0221 当該面区点位置で表現される図形文字に対応する JIS X 0221-1 の 16 進表記の 2 オクテット符号化表現又は UCS 列識別子 (USI)。

Note) 以下の附属書 4 のデータ (名前, ブロック名, UCS/USI) は小熊委員のデータによる。

24. 附属書 4 の次の 128 の面区点位置の 0221, 名前, 及び/又は 0221 ブロック名を, 次のように変更する。

【附属書 4 の変更点 (annex4.pdf) を参照】

25. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の第 1 段落を, 次に置き換える。
- 漢字の名前及びビット組合せは, この附属書による。ただし, JIS X 0208 に規定する区点のうち特に指定のないものについては, JIS X 0208 による。

26. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の d) を, 次に置き換える。
- d) SJIS (参考) 附属書 1 (Shift_JISX0213-2003 符号化表現) によるビット組合せ。

27. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の e) を, 次に置き換える。
- e) UCS JIS X 0221-1 又は ISO/IEC 10646-2 の符号化表現を表す。これは, CJK COMPATIBILITY IDEOGRAPH-FXXX, CJK UNIFIED IDEOGRAPH-XXXX 又は CJK UNIFIED IDEOGRAPH-2XXXX のようにして文字の名前でもあるが, ここでは, CJK UNIFIED IDEOGRAPH-又は CJK COMPATIBILITY IDEOGRAPH-は省略して示した。

28. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の e) の備考を, 次に置き換える。
- 備考 この規格の図形文字の解釈は, JIS X 0221-1 又は ISO/IEC 10646-2 の図形文字の解釈と, 必ずしも同一ではない。

29. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の次の 168 の面区点位置の例示字体の字形を, 次に掲げる字形に変更する。

【例示字体の字形が変更になる 168 文字の表 (annex6-168.pdf) を参照】

30. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の次の 364 字の UCS を, 次に変更する。

【UCS が変更される 364 文字の表 (annex6-ucs364d.pdf) を参照】

31. 附属書 6 (漢字の分類及び配列) の第 3 水準に, 次の 10 文字の漢字を追加する。

【附属書 6 に追加される 10 文字の表 (annex6-10.pdf) を参照】

32. 附属書 7 (面区点位置詳説) の 2.1 に, 次の d) を追加する。

2.1 JIS X 0208 との包摂関係の違い

d) 国語審議会答申『表外漢字字体表』(平成 12 年 12 月 8 日) に対応するために, JIS X 0208 で包摂していた漢字を国際整合性も勘案して新たに 10 文字追加した。このため, 次の面区点位置は, JIS X 0208 と包摂の解釈が異なる。かっこ内に示すのは, 対応するこの規格の面区点番号の字体である。

俱 1-22-70 (俱 1-14-1) , 剥 1-39-77 (剥 1-15-94) , 叱 1-28-24 (叱 1-47-52) ,
吞 1-38-61 (吞 1-47-94) , 嘘 1-17-19 (嘘 1-84-7) , 妍 1-53-11 (妍 1-94-90) ,
屏 1-54-2 (屏 1-94-91) , 并 1-54-85 (并 1-94-92) , 瘦 1-33-73 (瘦 1-94-93) ,
繫 1-23-50 (繫 1-94-94)

(止)